

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女11

女子2回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
大分鶴崎	<u>22</u>	<table border="1"> <tr> <td>12</td> <td>—</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">7mTC</td> </tr> </table>	12	—	9	10	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			<u>23</u>	水海道第二
12	—	9																				
10	—	14																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

両チーム互角の戦いを見せたが、試合終了間際に得点を決めた水海道第二が三回戦へと駒を進めた。水海道第二のスローオフで試合開始。立ち上がりは両チーム互角の戦いであった。水海道第二は前半23分に2番田村、26分に3番加藤が退場となるものの、点差は変わらず。しかし前半終了間際、大分鶴崎7番石川のステップシュート、10番岩本の速攻で3連続得点し、9-12で前半終了。

後半開始5分、水海道第二は1番稲葉、12番加藤の好セーブもあり同点に追いつく。その後は両チーム一進一退の攻防となったが、後半29分に水海道第二17番布田がサイドシュートを決めた。これが決勝点となり23-22で水海道第二が初戦を突破した。

31年 3月 25日

記載者氏名 堀内 元貴

戦 評 用 紙

女12

女子2回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
横浜平沼	<u>27</u>	14	—	10	氷見
		13	—	8	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

2回戦の高野山をくだした横浜平沼と氷見の対戦。前半、横浜平沼は5番笠井の多彩なシュートでリードを広げる。14分過ぎ8-4となったところで氷見がタイムアウトを取り立て直しをはかろうとするが、横浜平沼のかたいディフェンスに攻めあぐね、点差を広げられてしまう。

20分過ぎ横浜平沼の退場をきっかけに氷見が23分に11-9と2点差まで追い上げるが、その後は点差が詰まらず14-10で前半を終える。後半も横浜平沼は5番笠井を中心に得点をのばし、18分6点差となったところで氷見がタイムアウト。タイムアウト後は5番の笠井にマンツーマンディフェンスをつけたものの、逆に点差を広げられ、27-18で横浜平沼が準々決勝へ駒を進めた。

31年 3月 25日

記載者氏名 植村 彰太

戦 評 用 紙

女 13

女子 2 回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
四日市商業	<u>30</u>	14	—	9	埼玉栄
		16	—	14	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

2 回戦は、初戦で接戦の末に高水をくだした埼玉栄と四日市商業との対戦。

開始早々に埼玉栄 10 番の小林がミドルシュートを決め、埼玉栄が先制すると、四日市商業も 2 番古川を中心とした堅い守備から速攻で得点し、その後も互いのストロングポイントがあらわれる展開となった。埼玉栄は 9 番藤澤、11 番杉崎がリズムを作り、幅広い攻めからディフェンスをゆさぶりにかかるが、四日市商業の堅守に阻まれ、逆に 4 番南川のみドルシュートなどで得点を重ねた四日市商業のリードで前半を終えた。

後半、埼玉栄は相手のポイントゲッターである 4 番南川にマンツーマンディフェンスをしかけたが、組織化されたディフェンスからの速攻で 7 番伊藤、5 番伊東らが確実に得点した四日市商業が点差を維持し、埼玉栄の追撃を許さず、30 - 23 のスコアで勝利した。

31 年 3 月 25 日

記載者氏名 櫻田 常聖

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女 14

女子 2 回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名
千原台	<u>19</u>	8	18	宣真
		11	15	
		—		
		—		
		—		
		7mTC		
			<u>33</u>	

選抜大会 3 度の優勝経験をもつ宣真と、選抜大会初出場の千原台が顔を合わせた 2 回戦の序盤、宣真は 1 1 番小川のサイドシュートで先制すると 8 番對馬のカットインや 7 番奥田のミドルシュートなど多彩な攻めで得点を重ね、5 - 1 とする。その後、千原台も 4 番蔵本のミドルシュートなどで反撃するが、GK 1 番の山下を中心とする宣真のかたいディフェンスを崩しきれず、前半は 1 8 - 8 の宣真リードで折り返す。

後半、千原台が 8 番の有働のミドルシュートで先制すると、2 番米村から 7 番山本へのスカイプレーも見事に決まり、追撃態勢をみせる。しかし、宣真も途中出場の 1 5 番小泉がサイドから連続得点を決めるなどしてリードをたもち、最終的には 3 3 - 1 9 の宣真勝利で試合終了となった。

3 1 年 3 月 2 5 日

記載者氏名 本田 典之

戦 評 用 紙

女 15

女子 2 回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
福島	<u>14</u>	8	—	10	愛知商業
		6	—	9	
		—			
		—			
		—			
		7mTC			
			<u>19</u>		

ほぼ互角の立ち上がりから、後半 15 分愛知商業のフォーメーションプレーやミドルシュートで 4 点差に。この点差を守り抜いた愛知商業が 3 回戦に駒を進めた。

愛知商業 3 番辻の豪快なミドルシュートから始まった 2 回戦。堅実な守りを見せ、両チーム互角の戦い。福島のミス逃さず、愛知商業が点数を重ね、前半を 10-8 で折り返した。

後半、福島の 4-2DF、GK 塚の好セーブにより開始 5 分で同点に追いつく。そこからは前半同様に互角の戦いが続いた。試合が動いたのは後半 15 分。なかなか得点できない福島に対し、愛知商業は鮮やかなフォーメーションプレーや辻のミドルシュートで、後半 25 分には 4 点差までリードを広げる。この点差を守りきり、19 対 14 で愛知商業が勝利した。

31年 3月 25日

記載者氏名 堀内 元貴

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会
戦 評 用 紙

試合番号

女16

女子2回戦

会場 キッコーマンアリーナ

チーム名	総得点		総得点	チーム名
神戸星城	16	5	12	明光学園
		11	17	
		—	—	
		—	—	
		—	—	
		7mTC		

二回戦、初戦日川を下した神戸星城と明光学園の対戦。前半明光学園が7村上を中心に、力強いカットインと速攻でリードを広げる。7分過ぎ4点差となったところで神戸星城がタイムアウト。その後は両チームよく守り一進一退の攻防が続く。20分過ぎ明光学園がDFからの速攻でリズムを掴み3連取。5対12で前半を終了した。後半神戸星城に退場者が出ると明光学園は4平田の速攻などで4連取。5対16とリードを広げる。神戸星城は13船田のカットイン、17石坪のディスタンスシュートで得点を重ねるが、明光学園の速攻を守りきれない。最後まで点差は詰まらず、16対29で明光学園が準々決勝へ駒を進めた。

31年 3月 25日

記載者氏名 植村 彰太